

# 平成29年度第1回南島原市総合教育会議

日時 平成29年5月25日(木) 9時00分

場所 南有馬庁舎 3階大会議室

1 市長あいさつ

2 テーマ

(1) 義務教育学校について

(2) コミュニティ・スクールについて

(3) その他

# 平成28年度 小中一貫教育校（義務教育学校）視察まとめ

南島原市教育委員会学校教育課

	大町町立大町ひじり学園 【義務教育学校】	多久市立小中一貫校 東原庫舎中央校 東原庫舎東部校 東原庫舎西溪校 【小中一貫教育校】 ※H29.4 義務教育学校へ移行	新庄市立萩野学園 【義務教育学校】	品川区立日野学園 【義務教育学校】
小中一貫教育導入のきっかけ	町長のマニフェスト ※耐震校舎への建替え、児童生徒数の減少が背景にある。	市立小中学校適正規模・適正配置事業	新庄市長期教育プラン ※中学校の校舎老朽化と耐震化、少子化の進行が背景にある。	区の教育制度改革
小中一貫校開校までの年月	4年 H19 基本方針策定 H23 小中一貫校開校 H28 義務教育学校開校	8年 H17 適正規模・適正配置検討 H25 小中一貫校開校（3校）	10年 H17 長期教育プラン策定 H27 小中一貫教育校開校 H28 義務教育学校開校	4年 H14 小中一貫校開設公表 H18 小中一貫校開校 H28 義務教育学校開校
計画立案の主体	小中一貫開設準備検討委員会	小中学校適正規模・適正配置検討委員会	小中一貫教育校基本計画策定委員会（後に小中一貫教育校実施計画策定委員会に改編）	小中一貫校開設準備委員会
校舎の形態	施設一体型（新築）	施設一体型（新築、一部改築、既存施設活用）	施設一体型（新築）	施設一体型（新築） ※地域に対して総合体育館と温水プールを開放。
施設・設備設置の基準 ※階段の蹴上げ等	階段：小学校	中央校：小学校と中学校 東部校：中学校 西溪校：小学校	階段：小学校 ロッカー：1～6年と7～8年の2段階の大きさ コート掛け：ブロック別に3段階の高さ	階段：小学校と中学校の中間 廊下が広く、多目的スペースとしての活用も可能。
職員構成	校長 1（中） 副校長 1（小） 教頭 2（小、中） 主幹教諭 1（小） 指導教諭 1（小） 他 45名程度 ※小中の免許併有率：6割程度	校長 各 1 副校長 各 1 教頭 各 2（小、中） 事務長（中央中のみ） 主幹教諭（中央中のみ） 指導教諭（中央小、東部小） 養護教諭 各 各 2 事務担当者 各 2	校長 1（中） 教頭 3（小2、中1） 養護教諭 2（小、中） 事務職員 2（小、中） 学校栄養士 1（小） ※小で中の免許併有者：81.3% ※中で小の免許併有者：53.3%	校長 1（中） 副校長 3（小2、中1） 主幹教諭 4 主任教諭 12 養護教諭 2 栄養士 1 事務職員 2

	大町町立大町ひじり学園 【義務教育学校】	多久市立小中一貫校 東原庫舎中央校 東原庫舎東部校 東原庫舎西溪校 【小中一貫教育校】 ※H29.4 義務教育学校へ移行	新庄市立萩野学園 【義務教育学校】	品川区立日野学園 【義務教育学校】
児童生徒数	前期：300、後期：174	中央 前期：628、後期：379 東部 前期：223、後期：146 西溪 前期：204、後期：124	前期：260、後期：151	前期：564、後期：424
ブロックの区切り	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2
教育課程の特色	全学年一貫した授業スタイル「大町型スタイル」（問題解決的学習）を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の一貫カリキュラム</li> <li>多久学（3～6年、総合）</li> <li>論語教育、論語カルタ、論語検定（9年間を通じて）</li> <li>英語教育（1・2年は英語活動、3・4年は国際理解、5・6年は外国語活動、7～9年は英語科）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9年間の一貫カリキュラムによる指導。ただし、中学校の学習内容の前倒しや特設教科等はない。</li> <li>前期課程は小学校学習指導要領、後期課程は中学校学習指導要領に準拠した内容を指導する。</li> <li>「地域に根ざした」がキーワード。ふるさと学習、キャリア教育、心の教育に重点を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野カリキュラムの実践</li> <li>各教科に加え、ステップアップ学習（5～9年）、英語科（1～6年）、市民科（全学年）といった独自の教科を設定。 ※道徳、総合、特活を市民科に改変している。</li> <li>5年生から定期考査が始まる。</li> <li>5年生から部活動への参加が可能となる。</li> <li>土曜授業を年間14回実施。</li> <li>年間授業時数は学習指導要領の基準よりもかなり多い。 (例) 1年 850：1035 5年 980：1203 7年 1015：1050</li> </ul>
乗り入れ授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>中→小：音楽、体育、図工、英語 ※音楽は通年、他は単元次第</li> <li>小→中：保健体育（武道）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校によって異なる。 (例)</li> <li>中→小のT1：図工、家庭</li> <li>中→小のT2：国、社、算</li> <li>小→中のT2：理、特支の理</li> <li>異学年合同授業：6・9年理科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中→小：5・6年図工（一人で指導） 外国語活動（T2として）</li> <li>小→中：得意とする教科でT2として指導に入る。 ※小の教員が中の免許を保有しているからといって、指導できるわけではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中→小：図工、家庭、英語、音楽、社会</li> </ul>

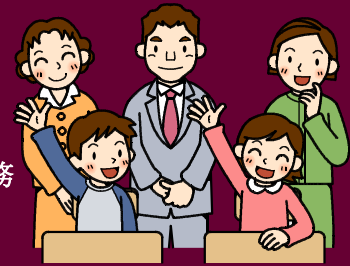
	大町町立大町ひじり学園 【義務教育学校】	多久市立小中一貫校 東原庫舎中央校 東原庫舎東部校 東原庫舎西溪校 【小中一貫教育校】 ※H29.4 義務教育学校へ移行	新庄市立萩野学園 【義務教育学校】	品川区立日野学園 【義務教育学校】
教科担任制の導入時期	・7年生 ・5・6年生の教科担任制は現在検討中。	・7年生 ・5・6年生は一部教科において教科担任制（専科）	・5年生 ・4年生から一部導入。 ・8・9年生では全ての教科において教科教室制を採用。 ※7年生から一部導入。	・5年生 ・5・6年生の教科担任は、その学年の教職員が教科を分担する制度を採用。
1コマの授業時間	・1～6年：45分 ・7～9年：50分	・1～6年：45分 ・7～9年：50分	・1～6年：45分 ・7～8年：50分 ※5・6年生は実質50分授業	・1～4年：45分 ・5～9年：50分
日課の工夫	ノーチャイムなので特に支障なし。	奇数校時の終わりと偶数校時の始まりをそろえる。	ノーチャイムなので特に支障なし。	・1～4年と5～7年で日課が異なる。 ・フロア別にブロックを配置しているので、それほど支障はない。 ・昼休みは時間をずらしている。 ・教職員の休憩時間は、15:45～16:30。 昼休みは、教職員の休憩時間ではない。 ※勤務終了は16:45
義務教育学校に移行後の変更点	特になし	特に変更しない予定。	特になし。	特になし。
コミュニティスクール	・H26年度から指定。 ・年4回開催。	・H28年度から市全域で導入。	・H28年度から指定。 ・年4回開催。 ・学び創造部、育ち創造部、いのち創造部といった校内運営組織に運営協議会の委員も参加している。	・H28年度から指定。 ・学校地域コーディネーター（区の臨時職員）の存在が大きい。 ・地域の人材活用等の拡充が図れた。

	大町町立大町ひじり学園 【義務教育学校】	多久市立小中一貫校 東原庫舎中央校 東原庫舎東部校 東原庫舎西溪校 【小中一貫教育校】 ※H29.4 義務教育学校へ移行	新庄市立萩野学園 【義務教育学校】	品川区立日野学園 【義務教育学校】
小中一貫教育の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教員が中学校の生徒の様子を見ることができ、連携がとりやすい。</li> <li>○中学生に思いやりの心が育つ。</li> <li>・中学生の問題行動が減少。</li> <li>・学年が上がるにしたがって学力の向上が見られる。大町型スタイルの効果。</li> <li>○中1ギャップはほとんどない。</li> <li>・子どもたちの自己肯定感が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生（特に男子）が予想以上に小学生に関わってお世話をしている。</li> <li>○中学生の自尊心や自己肯定感が高まる。</li> <li>・小学生が中学生に憧れや期待感を抱く。</li> <li>・乗り入れ授業で専門的な視点から指導できる。</li> <li>○指導力の向上につながった。</li> <li>・職員が9年間のスパンで指導を広く考えるようになった。</li> <li>・乗り入れ授業が教職員の協働体制の強化につながっている。</li> <li>・職員の綿密な情報交換が、問題行動の発生を抑止し、未然防止につながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流が日常的に行われるので、上学年の自尊感情、自己有用感が醸成される。</li> <li>・下学年においては、憧れとなる上級生を目標として活動する姿が見られる。</li> <li>・5～7年生で前学年と比較して学力の向上が見られる。（NRT）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の安定。</li> <li>・児童生徒が落ち着いている。</li> <li>・上級生が下級生に範を示し、下級生は上級生に学ぶ。</li> <li>・上級生に下級生を思いやる気持ちが育っている。</li> <li>・中1ギャップの減少。</li> </ul>
小中一貫教育の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の意識改革。</li> <li>・小中の学校文化の違い。</li> <li>・解決、融和には時間がかかる。</li> <li>・不登校はある。家庭的な影響。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習と教科等の授業時数の確保の両立。</li> <li>・児童生徒間の交流をどのように広げていくか。</li> <li>・行事、会議等の精選。</li> <li>・教職員間の理念の共有。</li> <li>・保護者の意識改革。</li> <li>○教職員間の打合せの時間の確保。</li> <li>・職員構成によって乗り入れ授業の実施教科が決まるので、見通しを持った教育課程の編成が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設分離型では、限られた時及び分野の取組となっている。</li> <li>・施設分離型では運営体制は各校それぞれの組織で完結し、小中の文化の違いもあって、スムーズな小中の接続、9年間を通した学校運営の連携、教育指導には限界がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5年生におけるギャップが生じている。</li> <li>・小中の文化の違い＝教職員の意識の違い。</li> <li>・教職員の中に日野学園への転勤を希望してくる職員はいない。 ※ただし、一旦馴染むとそのよさにはまる教職員もいる。</li> </ul>

# 南島原市に新たな学校を

南島原市立義務教育学校を検討しています。

※義務教育学校等とは…小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校です。



## 南島原市における 義務教育学校の特色

### ●学力の向上

9年間の学びに連続性(系統性)を持たせることにより、学力向上を図ります。

### ●諸問題の防止

学校を取り巻く環境の急激な変化に伴う児童生徒の問題行動(いじめ、暴力行為等)や不適応行動(中1ギャップ、不登校等)などの未然防止に努めます。

### ●教育課題への取組

時代が要請する新たな教育課題(英語、ICT、環境、福祉、人権等)への取組を充実します。

### ●特色ある学校づくり

南島原市の歴史や文化等を生かした特色ある学校づくりを推進します。

## 南島原市立義務教育学校の 具体像

### 1. 施設・設備

9年間の教育を一貫して行うため、全児童生徒を収容する新校舎を建設します。その際、地域コミュニティの核となるべく地域図書館等を有するようにします。その他、音楽室や体育館、美術室、プール等、地域の公共スペースとなるよう工夫すると共に、付帯設備を充実させます。

### 2. 教育課程

6-3制にとらわれず、子どもの発達段階を考慮して、例えば、4-3-2制の区分を導入します。また、特色ある教育を展開するために、新設教科(例えば、言語科、ふるさと科)等を創設します。

### 3. 指導体制

小学校高学年の段階から、一部教科担任制を導入し、専門性が高い教科においては、中学校教諭が小学校へ乗り入れ授業を行います。英語教育においては、低学年時から開始いたします。その他、スクールカウンセラーやALT、図書館司書等を配置します。

## 開校までの流れ

### 地区別説明会

市内で保護者や地域住民を対象に、説明会を行います。

### 候補地決定

義務教育学校開設に了承をいただける地区を候補地とします。その後、構想・設計に取りかかります。

### 閉校・開校準備委員会

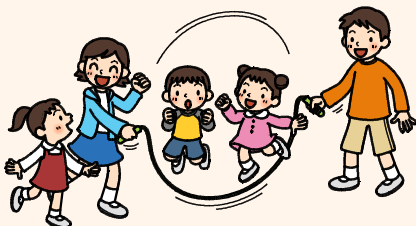
開校に向けて、関係者で協議を進めていきます。

### 新校舎建設

およそ2年間の工期となる見込みです。

### 義務教育学校開校

南島原市初の義務教育学校が誕生します。その後、市内学校の教育活動の中心校としての役割を果たし、その教育実践の成果等を広く普及させていきます。また、教育研究所としての機能を有し、教職員の指導力向上のための研修を行います。



## 南島原市立小・中学校児童・生徒数の推移(予測)

平成28年5月1日現在

平成28年5月1日現在

通番	学校	児童						児童・生徒数						28年度児童生徒数	29年度児童生徒数	30年度児童生徒数	31年度児童生徒数	32年度児童生徒数	33年度児童生徒数	34年度児童生徒数
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生							
1	加津佐小学校	17	17	21	11	20	20	24	29	22	30	29	37	171	154	145	126	125	113	106
2	野田小学校	12	13	11	15	9	10	9	15	14	13	9	13	73	70	70	72	69	67	70
3	口之津小学校	33	34	25	27	39	28	26	38	34	34	33	41	206	193	199	192	183	179	186
4	南有馬小学校	22	26	34	31	38	32	29	48	36	26	33	32	204	204	209	214	212	190	183
5	有馬小学校	20	21	22	30	26	27	29	22	28	25	38	29	171	169	157	162	156	155	146
6	西有家小学校	28	37	27	45	34	42	62	66	56	70	77	63	394	373	330	305	276	247	213
7	有家小学校	31	36	38	47	30	32	32	38	39	37	48	34	228	226	208	218	217	215	214
8	蒲河小学校	14	9	9	4	7	3	2	4	7	5	6	7	31	27	28	27	29	34	46
9	新切小学校	11	7	9	8	8	6	7	9	8	8	11	10	53	49	46	46	47	45	49
10	堂崎小学校	15	16	22	12	20	15	14	8	15	20	12	17	86	84	92	84	91	99	100
11	布津小学校	16	17	15	18	9	22	29	25	30	34	28	18	164	168	149	133	118	110	97
12	飯野小学校	12	7	8	7	8	4	5	6	13	11	6	14	55	45	47	43	38	39	46
13	深江小学校	9	21	10	11	9	15	14	18	33	27	34	46	172	165	159	162	162	187	193
	〃 馬場分校	12	20	16	27	14	13	11	16					27	24	27	41	43	36	32
	〃 諏訪分校	8	14	11	9	6	8	8						8	8	6	9	11	14	8
14	小林小学校	12	18	10	18	13	18	21	10	14	18	11	23	97	92	94	94	90	98	89
15	大野木場小学校	10	14	16	26	17	24	26	12	21	22	21	11	113	126	122	126	121	123	107

加津佐町 2校合計	29	30	32	26	29	30	33	44	36	43	38	50	244	224	215	198	194	180	176
口之津町 1校合計	33	34	25	27	39	28	26	38	34	34	33	41	206	193	199	192	183	179	186
南有馬町 1校合計	22	26	34	31	38	32	29	48	36	26	33	32	204	204	209	214	212	190	183
北有馬町 1校合計	20	21	22	30	26	27	29	22	28	25	38	29	171	169	157	162	156	155	146
西有家町 6校合計	28	37	27	45	34	42	62	66	56	70	77	63	394	373	330	305	276	247	213
有家町 4校合計	71	68	78	71	65	56	55	59	69	70	77	68	398	386	374	375	384	393	409
布津町 4校合計	28	24	23	25	17	26	34	31	43	45	34	32	219	213	196	176	156	149	143
深江町 5校合計	51	87	63	91	59	78	80	56	68	67	66	80	417	415	408	432	427	458	429
小学生計	282	327	304	346	307	319	348	364	370	380	396	395	2,253	2,177	2,088	2,054	1,988	1,951	1,885

前年との比較    -76    -89    -34    -66    -37    -103

通番	学校	児童						児童・生徒数						28年度児童生徒数	29年度児童生徒数	30年度児童生徒数	31年度児童生徒数	32年度児童生徒数	33年度児童生徒数	34年度児童生徒数
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生							
38	加津佐中学校						45	55	59					159	150	133	131	117	123	113
37	口之津中学校						41	44	36					121	126	115	108	101	106	98
36	南有馬中学校						44	37	41					122	113	109	91	95	110	113
35	北有馬中学校						27	32	48					107	88	94	92	91	75	79
34	西有家中学校						68	74	76					218	205	208	210	203	192	184
33	有家中学校						93	70	83					246	231	238	215	216	198	183
32	布津中学校						37	41	46					124	110	103	111	122	119	108
31	深江中学校						85	71	85					241	236	231	213	201	191	204
	中学生計						440	424	474					1,338	1,259	1,231	1,171	1,146	1,114	1,082

前年との比較    -79    -28    -60    -25    -32    -64

### 旧町別小・中学校児童・生徒数の合計

通番	学校	28	29	30	31	32	33	34
38	加津佐町	403	374	348	329	311	303	289
37	口之津町	327	319	314	300	284	285	284
36	南有馬町	326	317	318	305	307	300	296
35	北有馬町	278	257	251	254	247	230	225
34	西有家町	612	578	538	515	479	439	397
33	有家町	644	617	612	590	600	591	592
32	布津町	343	323	299	287	278	268	251
31	深江町	658	651	639	645	628	649	633
	市内合計計	3,591	3,436	3,319	3,225	3,134	3,065	2,967